

パートナーシップおかや

No. 27

岡谷市男女共同参画推進市民の会

地域における男女共同参画

岡谷市区長会会長・小尾口区長 牛山 素吉



今年、諏訪大社の御柱祭に始まり、地区の小宮御柱祭、そして同姓の巻の御柱祭等に至るまで御柱一色の一年でした。

諏訪大社下社の御柱祭では、氏子の皆さんの参加は過去最高で、御柱曳行路は人・人で一杯となり、身動きが自由にとれない程でした。うちの区にこんなにたくさんの方がいたのかと思っただけではなかったと思います。

過去には、御柱に女性は参加してはならない、女性が御柱に乗るのはもっての外といわれた時代があったと聞いていますが、現在はそんなことはありません。今では御柱の曳行は女性が主役となり、木遣り唄も男性よりも女性に鳴いて貰った方が声も通り、一気に御柱が動きました。

地区の氏神である小宮の御柱祭は、地区内を曳行されることもあり、お年寄りから子どもまでが全行程に参加するばかりでなく、自宅前の一部の区間を曳行したり、高齢や体調の都合もあって曳行に参加できない人は、休憩所での湯茶の接待や昼食の豚汁作りなどに参加されるなど、区民総参加で行われた御柱祭でした。

地域においては、人口が減少するなどの要因で、諸行事等を行うには、積極的な女性の参加が望まれます。そのためにも、誰もが参加出来

ることになっていますが、役職やリーダーに就くことに躊躇されることが見受けられ、残念に思います。お願いに行けば「副会長ならばよいが、会長は絶対に嫌だ、そんなに言うなら会から脱退させて貰います」と言われる始末です。皆と一緒に地域のために頑張ろうとする気持ちがあるのに、リーダーとなり、活動を活発にしようとする気持ちが湧いてこないのは何故でしょうか。リーダーをやってみると、その時は時間的にも制約があり、調整などにも苦労したが、人との出会いや経験が勉強になり充実していたとの感想をよく聞きます。

今日の社会は、労働の主たる場である職場は、かつての年功序列制度や昼間の定時勤務が崩れ、昼夜3交代や成果主義などにより、勤務形態や非正規雇用が増えるなど働き方が多様化してきました。そのために、家庭での家族揃っての時間が減少してきています。このような労働環境下では働き盛りの年代の女性は、意欲はあっても積極的に、地域の活動に参加することに二の足を踏むことになってしまおうでしょう。

私たちは、「ひとり一人の豊かな人生」を送るために「自然体で、誠実に愛情深く向き合う」ことを大切にしたいものです。この観点から、社会全体で「働き方についての見直し」を進めたいものです。

交流懇談会を行いました

交流のお相手は…「いきいき市民推進チーム☆輝くSUWA」の皆さま

諏訪市の男女共同参画推進団体「いきいき市民推進チーム☆輝くSUWA(代表・鴨志田朋子さん)」の皆さまとの交流が懇談会の形で10月25日実現しました。同日、月次の定例会を終えた後、小池会長ほか8名の「市民の会」メンバーは、鴨志田代表ほか8名の皆さまが待ち構えて下さっていた諏訪市役所を訪れ、相互の活動状況・運営の方法・活動を進めていく上での悩み・今後の抱負などを語り合い、有意義な時間をもつことが出来ました。



懇談会を終えて、記念写真

鴨志田代表から、団体の名称を「市民協議会から変更したこともあったか、イメージとしてあった硬さが取れ、『関係者がやっている団体』から、『男性および若い層の女性にまで親しみやすいもの』として捉えてもらえるようになり活動が活発化してきた」、また、とくに比較的若い女性メンバーから、「自然体で、上から目線ではなく、こちらから他の市民団体や女性団体の活動に参加させてもらい、一参加者としてさりげなく機能することにより、手応えを感じている」などと明るく語って下さいました。

私たちが今後とも活動を進めていく上で留意しなくてはならない多くの「示唆」をいただけた交流懇談会となりました。「いきいき市民推進チーム☆輝くSUWA」の皆さま、諏訪市に厚くお礼申し上げます。

「子どもとともに学ぶ、男女共同参画、協働の地域づくり」をテーマに
男女共同参画「おかや市民のつどい」が開催されました

主催：おかや市民のつどい実行委員会、岡谷市、岡谷市教育委員会

後援：岡谷市男女共同参画推進市民の会ほか19団体

内容：第1部＝①小・中学生の「男女共同参画社会づくりポスターコンクール」表彰式

②小学生とともに作った「男女共同参画かるた」の発表

第2部＝講演会(旗上げアンケート方式ディスカッション) 講師：内山二郎さん(フリージャーナリスト)

演題「一人ひとりの個性を大切にする地域づくり」

子どもたちには、幼少期から「男女共同参画」の意識を育てたい…と、「長野県地域発元気づくり支援金」をいただき、子どもたちとともに取り組み・作り上げた「男女共同参画かるた」。その取り組みの経過を紹介し、あわせて「男女共同参画社会」について、市民の皆さんにもっと関心をもっていただき、実現に向けて弾みをつけたい、子どもたちの保護者の皆さんも多数参加いただきたい、との願いから「おかや市民のつどい実行委員会」が組織され、「子どもとともに学ぶ、男女共同参画、協働の地域づくり」をテーマに、10月2日(日曜日)に開催されました。会場(カノラホール)玄関のコンコースには、今年度の「男女共同参画ポスターコンクール」に寄せられた市内小・中学生の作品がずらりと展示されるなど、「子どもとともに学ぶ市民のつどい」に相応しい会場づくりがなされました。その会場では、第1部の「ポスターコンクールの表彰式」と、「小学生とともに作った男女共同参画かるたの発表」が行われるとともに、第2部では、子どもたちも参加できるようにと、旗上げアンケート方式で「講演会」が行われました。

定刻の午後1時、今井竜五市長より、「開会あいさつ」をいただいた後、

第1部 その①「ポスターコンクール表彰式」が執り行われました。

○「ポスターコンクール」で最優秀・優秀・入選の作品を寄せられた児童・生徒の皆さん(小学生9人、中学生5人)が登壇。市長より表彰状と記念品が激励のことばとともに授与されました。

○例年は、市庁舎内で、被表彰者の保護者、指導された学校の先生方を迎えての表彰式でしたが、本年度は、多くの市民の皆さんも見守って下さっている中での表彰式となりました。ちょっぴり緊張した面持ちで、市長から表彰状と激励のことばを受けた児童・生徒の皆さんは、会場から寄せられた拍手に、ほっと表情を和らげていました。



今井市長から表彰状をいただく

第1部 その②「小学生とともに作った『かるた』の発表(お披露目)が行われました。

○小池喜代実行委員長(「市民の会」会長)より、足掛け8カ月を要して本年9月に完成した「小学生低学年児童向け『男女共同参画かるた』」のお披露目がありました。



かるた会(岡谷田中小学校)の様

○小池委員長は、かるた制作の目的を簡潔に説明された後、制作過程での資料や記録写真をパワーポイントを使って説明。構想段階から試行錯誤しながらも、「市内の小学校(小学生)の協力があって、かるたを完成させることが出来た」と強調されました。

○また、子どもたちが「かるた」に興じつつ学んでいる動画映像＝長地小学校放課後の居場所づくり事業「おさっちあ」やLCVが取材・放映した「岡谷田中小学校5年生の総合学習授業」の様子＝を紹介。「『かるた遊び』を通じて、楽しみながら『人権(男女平等)』『男女共同参画』『キャリア形成』の意識を学び、それを両親や地域にも広げていって欲しい」と呼び掛けました。

第2部 講演会 演題『一人ひとりの個性を大切にする地域づくり』(講師：内山二郎さん)

○講演は、「旗上げアンケート方式ディスカッション」で進められました。

○実行委員会は、子どもたちの「かるた」と絡めて、講師と調整し、「質問項目5点」と、この質問5項目に対する「予想回答例(5つの選択肢)」を予め用意しました。

①男女共同参画に関する催しに、若い人・男性の参加が少ないのは何故でしょうか。②岡谷市は働く女性が多いが、女性が長く働き続けるために必要なことは何でしょうか。③地域の役員に女性が少ない現状の中で、女性が役員になることへの心配や不安なことはどんなことですか。④「適任であれば男女は問わない」という雰囲気をつくるにはどうすればよいでしょうか。

⑤「地域の活性化、地域づくり」とはどのようなことでしょうか。

○講師より、上記の質問事項を会場の皆さんに解説付きで投げ掛けていただいた後、皆さんから、「ご自分の考えに近い回答例(選択肢)」を投票(旗上げ)して貰いました。その回答をもとに、講師と皆さんとのディスカッションが行われ、理解を深め合う形で講演会は進行しました。(次ページに続く)



内山講師の質問に答える

(前ページからの続き)

○講師は、終始マイク片手に会場の皆さんの傍ら近くで、親しく話(質問)されたり、コメントされるなどして会場全体を盛り上げながら、『男女共同参画』一人ひとりの個性が大切にされる地域づくり』のためにも、働き方を見直し、『ワーク・ライフ・バランスを大切にしたい生き方が尊重される社会づくり』を目指していきたい」と説かれ、約90分間に及んだ講演を締め括られました。

午後3時45分、小池実行委員長の「閉会のあいさつ」をもって、今年度の「市民のつどい」は閉幕となりました。

結婚と子育てについての若者の意識を知り、今私にできることを見つけよう 平成28年度 第1回「パートナーシップ講座」開催されました

信州豊南短期大学講師・小濱知美さん(岡谷市男女共同参画審議会会長)を講師にお招きし、本年度第1回「パートナーシップ講座」を開催しました。

開催日時:12月 1日(木曜日) 18:00~20:20

会 場:イルフプラザカルチャーセンター(多目的ホール)

参 加 者:市民の方も含めて20名

大学で若い学生たちに「若者のライフおよびキャリアプランニング」の講義をされ、若者たちの自立を促す指導をされている小濱講師に、今どきの若者は何を考え、どんな意識で人生を考えているのか、また、そういう若者にどんな指導をされているのか、何うことが出来ました。



熱心に講義に聞き入る

小濱講師は、本日の講演のテーマを「女性の活躍というけれど・・・結婚と子育てについての若者の意識を知り、今私にできることを見つけよう」と規定されました。

1. ご自身の「これまでのキャリア」と「ある一日の時間の使い方」を例にあげ＝女性(とくに母親になった女性)の「生活時間」は自ら意識的に管理しないと悲惨なものになってしまう、とズバリ指摘される。
 - ・子育ては3歳どころか6歳でも終わらない。小学生になっても、中学生になっても続くものだ。
 - ・子どもが生後6か月の時、夫は一方的に転勤(単身赴任)。3歳になったとき帰ってきた。
 - ・専任の講師になることは大変であることを悟り、非常勤講師のキャリアを選んだ。在宅勤務も可能となり、「自分にとってのお楽しみの時間も確保できる生活時間管理」をしている。
2. 女性の活躍と一口に言われているけれど＝「法律」と「若者の意識・私たちの認識」にはギャップがある
⇒これからは、自分に合った働き方を「自分」で見つけ出し、プランニングしていく時代である。
3. ハッピーなライフステージと働き方について考えてみる
 - 1)「幸せグラフ」を学生に書いて貰うと⇒「山あり谷あり」の変化の多い生活ではなくて、男女とも変化の少ない生活を望んでいるようである。とくにここ2～3年その傾向が出てきている。
 - 2)結婚・出産の時期についてどう考えているか、女子学生に尋ねてみると。
 - ・早く結婚したい(約50%＝内27%:早く結婚・早く出産。内 23%:早く結婚・遅く出産)。
 - ・遅く結婚・遅く出産(約25%) ・(遅く結婚)子どもは要らない(約20%)
 - ⇒「子どもを産む生き方」「生まない生き方」「ずっとシングル」「DINKS＝ダブルインカム・ノーキッズ」と様々であり、結婚・出産についての意識が多様化している。
 - 3)子育てについて若い男女(学生)に尋ねてみると。
 - ・女子＝「いったん退職、子育て後に正社員(またはパート社員)として復職したいが一番多い。
 - ・男子＝本音を言うと、「妻になる女性には、子育てに専念して欲しい」が一番多い。
 - 4)女子学生が選ぶ働き方(ワーキングスタイル)
 - ・最も多いのは＝ゆるキャリ(WLB＝ワーク・ライフ・バランス＝はとれているので長続き出来るが、会社等の本人活用度は低いので活躍しにくい)スタイルである。
 - ・「バリバリキャリア・スタイル」、「両立キャリア・スタイル」を選ぶ学生は少ない。
 - 5)女性の活躍のイメージは、一般的には「子育てをしながら働き続けられる状態」であるが。
 - ・女性が描く、女性の活躍イメージ＝「子育てをしながら管理職・専門職で働くこと」
 - ・男性が描く、女性の活躍イメージ＝「4人に1人はイメージできない」
4. 「子どもを産める仕事」と「産める働き方」について、若い学生に次のような指導をしている
 - 1) 業界別離職率(厚生労働省が調査し公表している)を調べよ
 - 2) 社員総数に対して求人数が多くないか?(多ければ人の入れ替わりが激しい)
 - 3) 勤続年数に男女の偏りはないか?
 - 4) 様々な年齢層の女性(男性)が活躍しているか?
 - 5) 男女の育休(介護休暇)取得率
 - 6) 女性の役職者の数
 - 7) 成果で評価してくれるか、労働した時間の長短で評価していないか?
 - 8) 残業が常態化していないか? 有給休暇の取得状況は?
 - 9) 経営トップが女性を活用しようとしているか
 - 10) 再雇用制度はあるか?

(三澤 勲)

懇談会 テーマ「男女共同参画の地域づくり」開催しました

～市内の各種団体の役員・委員の皆さまから、様々なご意見や提言をいただきました～

市民の会は、11月24日(木曜日)、市内各種団体の役員・委員の皆さまにお集まりいただき、「男女共同参画の地域づくり」をテーマに懇談会(フリー・トーキング会)を開きました。

お集まりいただいたのは、次の44名(内、市民の会・事務局10名)の方々です。

区長5名(男性)、区会計役員1名(女性)、区会議員7名(内、女性市会議員1名、女性6名)、地区婦人会長2名(女性)、民生児童委員4名(女性)、区の保健委員会委員長4名(女性)、地区社協副会長1名(女性)、子育てミニ集会役員1名(女性)、青少年健全育成委員1名(女性)、PTA役員6名(女性)、PTA事務局役員(教頭)2名(男性)、市民の会9名(女性7名、男性2名)、事務局(岡谷市企画課)1名(女性)

- 小池会長は、冒頭のあいさつの中で、男女共同参画社会を成立させる「三つの自立(生活の自立、経済的自立、精神的自立)」に言及した上で、次のように、本懇談会に「期待する旨」を述べました。
- ・「女性の社会進出」政策・方針決定の場に出る女性の意識について、皆さまのご見解・ご意見を自由闊達に出していただき、「家庭・学校・地域、女性自身の意識の実態(ありよう)」を踏まえ改善の方向を探る懇談会にしていただければと思います



6GPに分かれ活発に行われました

- 6つのグループ(GP)に分かれ懇談、市民の会メンバーは、ファシリテーターを務めました。

- 1GP : 区議1名、区長2名、地区女性の役員1名、PTA役員2名=計6名(ファシリテーター: 山口俊雄さん)
- 2GP : 区議1名、区の保健委員長3名、更生保護地区会長1名=計5名(ファシリテーター: 鮎澤美知さん)
- 3GP : 区議2名、社協副会長1名、民生委員1名、PTA役員2名=計6名(ファシリテーター: 黒岩末寿子さん)
- 4GP : 区議1名、区長1名、区役員(会計)1名、民生委員2名=計5名(ファシリテーター: 伊藤綾子さん)
- 5GP : 区議1名、区長2名、地区女性の役員1名、PTA役員2名=計6名(ファシリテーター: 野溝道子さん)
- 6GP : 区議1名、民生委員2名、子育てサポーター1名、PTA役員2名=計6名(ファシリテーター: 小口光子さん)

- 懇談は約80分間続けられましたが、20時10分までに懇談内容がまとまり、各ファシリテーターから次のように(順不同)報告されました。これは、参加された皆さん全員の共有事項であるとともに、私たち「市民の会」の今後の活動の方向を示唆してくれる「貴重な提言」と捉えたいと思います。

- 1) 先ず、役員・委員に就かれて、実際に活躍されている状況について語って下さいました。

- ①それぞれの団体・地域・PTAの要職・役職に就き、「悩みや困難を抱えながらも、役職遂行に向け、プラス思考で努力し頑張っているが、とにかく多忙感がある」(1・2・3・4・5・6GP)
- ②地域・PTAの役職を経験することによって、「視野も広がり、自分を磨くことができ、それが遣り甲斐や達成感・喜びにつながっている」(1・3GP)
- ③役職を全うすることで、「自分は地域を支えていると実感できる」(3・5・6GP)
- ④自分が経験した地域の役職を後継者に引き継ぐ際、「時に、戸惑いと難しさを感じる。とくに役職について(予備)知識もない人に引き継ぐことは難しいことだ」(2GP)
- ⑤「区会議員は、委員会役員を兼務し、執行業務もしなければならぬので忙しい」(2GP)
- ⑥「地域・区で何かの事業をするとすると、人集めが何より大変である」(2・5GP)
- ⑦「男性・女性を問わず、区会議員同士での議論の場が少ない」(2GP)
- ⑧区の行事はマンネル化し、やり方には守りの姿勢が目立つ。もっとスリム化すべきだ(2GP)
- ⑨役職を続けているが、他の女性から「よくやってるね」と揶揄する空気が残っている」(6GP)

- 2) 「男女共同参画」「女性の視点を生かした地域づくり」に向けての貴重な提言をいただきました。

- ①例えば、運動会のような誰もが参加し易い行事を、小さな単位での分散開催とするのではなく、「大きなまとまり」として実施するなどして、日頃より相互に人となりを理解し、知り合う機会を作っていくことが、大切なことではないか」(1GP)
- ②区の財政状況が逼迫し委員会活動のための予算も厳しい中、役職者に会議費等の名目で「報酬」が支払われていることに抵抗(負担)を感じていたので、今年度、これを返上してみた。すると他の委員会もこれに倣い、区全体の経費節減が図られた。予算の使い方は女性の感覚や考え方を活かした方がよいのではないか」(2GP)
- ③「この多用化した社会で、守りの体制に固執していれば無理がくる。女性や障がいのある方々等が地域の役職に就くことによって多様な考えが生まれ、組織もやるべき仕事もスリム化でき、新しいことにチャレンジできる社会・地域づくりが可能になる」(2GP)
- ④「男女共同参画の地域づくり」の要諦は「家庭内での夫の理解とサポート」である。しかし、夫は、毎日残業で帰宅が遅く、サポートどころか理解する余裕すら持てないケースが多い。今こそ、働き方の「抜本的見直し」を進めるよう、大きな声を上げるべきだ(3・4・5・6GP)
- ⑤男性(夫)は、妻がいなくても、通常の日常生活が出来るよう「自立」しなければならない(4GP)

「男女ともに活躍する社会」への展望を探る

長野県共同参画をめざす会主催「共同参画の街づくりフォーラム」に参加してきました

男女がともに活躍できる社会に向けての展望を探る「共同参画のまちづくりフォーラム」が12月10日(土曜日)、県男女共同参画センター“あいとぴあ”で開催されました。このフォーラムは、長野県男女共同参画センター企画協働事業として、「長野県共同参画をめざす会(会長:小池喜代さん=「市民の会」会長)」が、一般にも公開する研修会として企画、次の2部構成で行われました。

- 第1部 : 基調講演 演題「女性が輝く地域づくりに向けて」 講師:中島恵理さん(長野県副知事)
 第2部 : 事例紹介 ①「共創による共同参画のまちづくり」(須坂市男女共同参画推進市民会議)
 ②「子どもと共に学ぶ協働のまちづくり」(岡谷市男女共同参画推進市民の会)

県内各地から約60人が参加しましたが、私も主催者側の一人として、第2部「事例紹介」のコーディネーターの役割を務めながら参加してきました。

【第1部】基調講演(講師:中島恵理副知事)

- 冒頭、富士見町に嫁いで、公務の傍ら、夫の助けも得ながら子育てしていることに触れるなど、ソフトタッチの自己紹介がありました。
- 長野県の共同参画関連の事業計画や施策を説明＝「県内を回る中で感じたが、長野の女性は逞しい。直観力や行動力、協働する力を備えている」とし、「例えば食器や廃油のリサイクルなど、地道な活動を各地に広げている」と女性の活躍ぶりを讃えるとともに、その活動を継続していくことの必要性を説かれました。
- また、県の「女性職員活躍推進計画」を示し、男性職員の育児休業の取得率向上など「男性が子育てに関わることで女性も活躍できる」と「男性の支えの大切さ」を、ご自身の実体験中のこととオーバーラップさせながら強調されました。その上で、県の新しい5か年計画に触れ、民間企業等での「ワーク・ライフ・バランスの推進に向けての各種の認証制度」などについても紹介されました。



笑顔で講演される中島恵理副知事

【第2部】事例紹介

1) 「共創による共同参画のまちづくり」(須坂市男女共同参画推進市民会議)

注)須坂市男女共同参画推進市民会議＝市内の26団体が連帯した会議体

黒岩七女さん(推進市民会議代表 長野県共同参画をめざす会)副会長)が、パワーポイントを使って紹介されました。

- 須坂市内にある各種団体(26団体)を、男女共同参画の理念で会議体としてまとめ上げた。
- 須坂市内の69町内全てで、「地域学習会」を実施してきた。
- 区、公民館主催の学習会などに、男女共同参画のテーマを採り入れてもらうことにし、市民会議の会員・メンバーが、区や公民館に出向き、「ミニドラマ」「寸劇」などを披露する活動を続け、成果を上げてきている。

2) 「子どもと共に学ぶ協働のまちづくり」(岡谷市男女共同参画推進市民の会)

三澤 勲(「市民の会」)が、パワーポイントを使って紹介しました。

- 「人権意識・男女共同参画・キャリア形成」の啓発は、幼少期からなされるのが理想である。この「市民の会」の基本的な考え方に基づいて、平成19年より、子ども(小学生高学年)向け「マンガ冊子『わたしらしくあなたらしく』」を2年がかりで完成、平成21年に市内の小学5・6年生に配布。平成22年からは、毎年、年度初めに市内の小学5年生全員に配布してきた。
- 学校では、同「マンガ冊子」を副読本(副教材)として活用。これが切っ掛けとなり、小中学生に「男女共同参画ポスター」を描いて貰い、応募してもらった「ポスターコンクール」活動として定着してきている。また、「マンガ冊子」を読んだ後の読後感作文の募集も行い、市民の皆さんの前で発表する機会も作った。
- 平成28年には、県の「元気づくり支援金」もいただき、小学生低学年向けの「男女共同参画かるた」を、「読み札文言」「絵札イラスト」も児童が作ったものをベースに、小学校の校長先生方の協力もいただきながら完成させた。各小学校等に配布し、実際の授業(総合学習)や、「放課後子どもの居場所づくり事業」の中で活用されている。

2件の事例紹介があった後、参加された皆さんから、須坂市には「寸劇の内容を教えて欲しい」、岡谷市には「出来上がったかるたを分けてもらえないか」などの声が寄せられました。長年このテーマに取り組んできた岡谷市の私としては、これまでのことを認めて頂いた思いが嬉しく感じました。

(小口 光子)

テーマ「多様なライフスタイルが実現できる信州へ」
平成28年度「長野県男女共同参画推進県民大会」が開催されました

開催日時：平成 28年 11月 26日（土曜日） 12:40～15:40

主催：長野県男女共同参画推進県民会議 長野県

共催：岡谷市 諏訪市 茅野市 下諏訪町 富士見町 原村 長野県教育委員会

内容：

1) 表彰式(長野県男女共同参画推進県民会議表彰)

2) 講演：

演題:「男女共同参画の視点で考えるライフデザイン—働く・子育て・介護—」

講師:白河 桃子(しらかわ とうこ)さん(少子化ジャーナリスト 相模女子大学客員教授)

3) パネルディスカッション：

テーマ:「男性の家事・育児参画の推進 多様なライフスタイルの実現について」

主催者に協力しお手伝いをするこもしながら、参加してきました。

1) 表彰式:○1個人と5団体が「県民会議表彰」を受け、表彰状が会長より授与されました。

○諏訪地区からは「下諏訪町消防団女性消防隊」が団体として表彰を受けました。女性ならではの視点から、地域の防災力向上に向け、高齢者宅への防火訪問や保育園での防災教室の開催など、地域とのコミュニケーションを大切に活動に精力的に取り組まれたことが評価されました。

2) 講演(講師:白川桃子さん)＝「婚活」を提唱された白川さんらしい講演を聞かせてもらいました。

(1) 男性の家事・育児へ「参画」が喫緊の課題

○これからは、「共働き」「共育て」が当たり前の時代。○「専業主婦」は「貧困老人」となる危険性があると認識すべきだ。○今当たり前と思っている「働き方」を見直し、「男性の家事・育児へ参加を超えた『参画』が喫緊の課題」になっている。

(2) 妊娠活動＝「婚活」のすすめ

○晩婚・晩産化が進む一方、私たちは、生物学的な「妊娠適齢期は35歳まで」という現実に真剣に向き合わなければならない＝「婚活する時代」がやってきた。○女性の社会進出が進み、晩婚化が加速する中、「いつか自然に結婚して子どもを持つのが当たり前」という意識ではダメ。子どもが欲しいと思ったときに出来ないこともある。○妊娠にまつわる知識を正しく身につけ、自分の身体の現状を把握し、自分に最適なライフプランを描いていくことが大切である。

3) パネルディスカッション＝助言者:白川桃子さん コーディネーター:重 千富さん(県民会議顧問)

○パネリスト3人(・小原太郎さん＝JA松本ハイランドパパサークル代表、・寺尾雄二郎さん＝パパカレッジ上田代表、・山崎三千代さん＝ママ育プロジェクト代表)の活発な討論が行われました。

○パネリストの男性は、生活時間を上手に自己管理して「家事・育児」に自発的に「参画」している。また、夫婦互いに助け合い、子育て中も「社会から離脱しない、いつでも職場復帰が出来る努力と支え合いを実践している」との発言がありました。

○中身の濃い、非常に価値あるディスカッションでした。感動しました。

4) 完成した「男女共同参画かるた」の展示：会場ロビーに、「市民の会」が小学生とともに考え、9月に完成した「小学生低学年向け男女共同参画かるた」を展示しました。多くの皆さまに興味深そうに見ていただきました。(伊藤 綾子)



長野県社員の子育て応援宣言！は、企業・事業所のトップの方から、従業員が仕事と子育ての両立ができるような「働きやすい職場環境づくり」の取組を宣言してもらおう制度です。多くの企業が社員の子育てを応援するためさまざまな取組を行っています。

＜岡谷市内登録企業＞ (50音順)

(有)イトウ技研・エーピーエヌ(株)・(株)Nテック・大井運送(株)・(株)岡谷組・医療法人研成会・興和工業(株)・(株)サイト・(社福)サン・ビジョン グレイスフル岡谷・(社福)サン・ビジョン 第2グレイスフル岡谷・信越ハーネス(株)・水道建設(株)・(株)スギムラ精工・(有)セルバ・(株)総設工業・(株)ダイヤ精機製作所・(株)タケムラ製作所・(株)豊島屋・一般社団法人ハートライフ岡谷事務局・マルゴ工業(株)・(株)マルモ・マルヤス機械(株)・(株)みどりや・山岸建設(株)・医療法人祐愛会